



COEプログラム拠点リーダー
東アジア学術総合研究所

高山節也 教授

1947年生まれ。1971年國學院大學文学部卒業。1979年東京大学大学院博士課程退学。1983年佐賀大学教育学部助教授を経て、1988年二松學舎大学文学部助教授。1995年教授に就任。専門は漢籍書誌学。

21世紀COEプログラム
「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」

事後評価について

平成16年度採択の本学COEプログラムについて、事後評価で「設定された目的は十分達成された」との評価を得ました。これは四段階評価の最上ランクにあたり、きわめて喜ばしいものです。

総括として、本学の小規模ですが専門性に特化した特性を十分生かしたことが評価されました。具体的には、日本漢文学という新たな地平を開拓し、日本漢文学の意味を十分理解した、質の高い若手研究者による多数の論文発表や学位の取得等が評価されたこと、日本漢文関連文献データベースの構築、機関誌『日本漢文学研究』の創刊等により、本プログラムの継承発展の基礎を構築したこと、日本漢文学という新たなジャンルが、啓蒙活動や国際会議を通じて国内外に広く知られ、漢字文化圏諸国あるいは欧米との研究教育交流もなされたこと等を、評価されたものです。

一方で、当初から問題視されていたことですが、ジャンルを越えた討論による理論構築が望まれること、外国人研究者との共同研究への期待等、今後の展開への示唆もなされました。COEプログラムの当初から課せられた義務として、これらを大学全体の事業として継続発展させることが、今後の本学における任務になるでしょう。そのために現在COE継承事業として、「日本漢文教育研究プログラム」を立ち上げています。

「日本漢文教育プログラム」

活動内容とプログラムの今後について

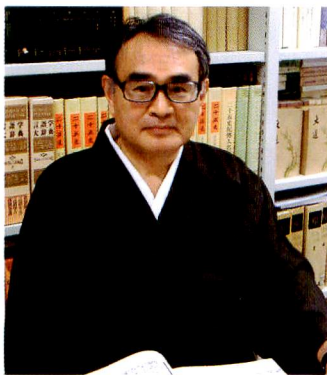
21世紀COEプログラムという文部科学省の補助事業は、世界水準の研究教育を計画運営する大学に対して、計画の立ち上げ期にあたる5年間で資金面で支援するというものです。

つまり、5年間でCOEが「終了した」というのは、文部科学省の補助が終了したという意味で、研究教育拠点の運営はそれで終わらせてはいけません。

そこで、本学としては21世紀COEの各種事業の中から、エッセンスとなる活動を選んで再構築し、「日本漢文教育研究プログラム」という名称のもとで拠点の運営を続けています。その活動の主なものは、(1)世界拠点として海外の漢文教育を支援すること、(2)日本に変容した「和習漢文」読解の研修を振興すること、(3)日本漢文文献目録データベースを更新・維持すること、などです(もちろん漢文資料の研究もあります)。

本プログラム最大の特徴は、本冊のほかの記事にもあるように、海外の大学に向けた漢文教育でしょう。現在は7大学を対象に実施しており、いずれも世界の一流大学です。

本プログラムとしては、こうした海外講座の実践を通じてそのノウハウを蓄積・整理する一方で、二松學舎の学生諸君の中から、海外で漢文を教える若く優秀な教育者を育成することも視野に入れていきます。諸君、世界の著名大学で漢文を教えるという「夢」を実現するのも、素敵な人生ではないでしょうか。ぜひ大学院にきて、夢を手に入れてください。



日本漢文教育研究プログラム拠点リーダー
大学院文学研究科

佐藤進 教授

1947年生まれ。1972年東京都立大学人文科学部卒業。1974年東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了。富山大学人文科学部助教授、東京都立大学人文科学部教授などを経て、2005年に二松學舎大学大学院文学研究科教授に就任。専門は中国語学。